



**Data** 2025-60

監督: ウ・ミンホ

出演: ヒョンビン/パク・ジョンミン/イ・ドンウク/チョ・ウジン/チョン・ヨビン/パーク・フン/リリー・フランキー/ユ・ジェミョン/チョン・ウソン

## 👁️👁️ みどころ

ハルビンは旅順・大連・奉天・長春等と共に日本人に最も有名な地名だが、それはなぜ？他方、2022年7/8に起きた山上徹也被告による安倍晋三元総理銃殺事件から丸3年を経たが、1909年10/26にハルビン駅で起きた初代韓国統監・伊藤博文の銃殺(暗殺)事件とは？その犯人(実行犯)は？共犯は？歴史的背景は？

韓国で最も尊敬される3人の歴史上人物は、①朝鮮4代目の王にしてハンゲルを作った世宗(セゾン)大王、②朝鮮を侵略した豊臣秀吉の水軍を幾度も撃破した李舜臣(イ・スンシン)、そして③安重根だが、安重根はテロリスト？それとも烈士？彼はなぜそんなに尊敬されているの？去る6/3の選挙で新たに韓国大統領に就任した李在明(イ・ジェミョン)の、安重根に対する評価は？また彼の新たな日韓及び日米韓同盟の構想は？

韓国での“動員数4週連続第1位”を誇る本作が描く、“歴史的事件の裏側を壮大なスケールで描く極限サスペンスエンターテイメント”をしっかりと楽しみ、かつしっかりと学びたい。

— \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \*

## ■□■「ハルビン」からの連想は伊藤博文！そして安重根！■□■

ハルビンを中国語で表記すると、哈尔滨。日本による満州国建設の時代、日本人に最も親まれた中国(大陸)の地名の代表は大連、奉天、長春、そしてハルビンだろう。他方、日露戦争時代に日本人に親まれたロシア占領下の中国の地名は旅順、奉天、遼陽だ。それは司馬遼太郎の『坂の上の雲』(68年)に描かれた旅順、とりわけ二〇三高地の戦いや奉天会戦、遼陽会戦の物語が大きく影響しているためだが、ハルビンと聞いて歴史好きの日本人がすぐに連想するのは、伊藤博文と安重根(アン・ジュンゴン)。なぜなら、伊藤博

文は1909年10月26日にハルビン駅で暗殺され、安重根は伊藤博文銃撃暗殺事件の実行犯、そして同事件で逮捕され裁判の結果死刑に処せられた人物だからだ。

伊藤博文は、長州の吉田松陰が開いた松下村塾で学び、1864年の高杉晋作による「功山寺決起」に参加。1868年の明治維新後に大久保利通の片腕として頭角を現し、1885年には初代内閣総理大臣に就任。日露戦争後は初代韓国統監に就任し、3度にわたる日韓条約を成立させた明治の元勳だが、その評価は如何に？ハルビン駅にて安重根に銃撃され死亡したことは、歴史好きの日本人なら誰でも知っているが、その真相は如何に？

他方、安重根は伊藤博文暗殺の実行犯として日本でも有名だが、その人物像を正確に知っている日本人は少ない。Wikipediaによれば、「1909年10月26日に韓国併合阻止のために尽力していた伊藤博文をハルビン駅構内で銃撃し暗殺に至った。ロシア官憲に逮捕されて日本の関東都督府に引き渡され、1910年3月26日に処刑された。獄中で「東洋平和論」を執筆。大韓民国の建国以後、韓国の民族主義で象徴的な位置づけとなった。」と書かれているが、さて？

## ■韓国で最も尊敬される3人の歴史上の人物は？■

あなたは、韓国で最も尊敬されている3人の歴史上の人物を知ってる？パンフレットに収録されている、崔盛旭（チェ・ソンウク）氏（映画研究者）のCLOUMN『「ハルビン」で描かれる“人間”安重根（アン・ジュングン）」によれば、そこで、「今も昔も変わることなく挙げられる3人の名前」は、①朝鮮4代目の王にしてハングルを作った世宗（セゾン）大王、②朝鮮を侵略した豊臣秀吉の水軍を幾度も撃破した李舜臣（イ・スンシン）、③日本による大韓帝国（朝鮮）侵略の「元凶」である伊藤博文を暗殺した安重根、とされている。①の世宗大王は、映画『王の願い ハングルの始まり』（19年）（『シネマ48』232頁）等で、②の李舜臣は、映画『ハンサン 龍の出現』（22年）（『シネマ52』276頁）等で有名だが、③の安重根はどんな人物？

日韓併合条約が成立した1910年8/22以降、韓国は日本の植民地とされ、それが1945年8/15の日本敗戦まで36年間も続いた。したがって、“祖国の独立を踏みにじる年若い狼”を暗殺した安重根は日本からの独立を目指す“韓国独立派”の人々の英雄！そうだからこそ、彼は韓国で最も尊敬される3人の歴史上の人物の1人に挙げられるわけだ。

もっとも、それは韓国だけの話で、日本では伊藤博文を暗殺した韓国人・安重根の名前はほとんど知られていない。また、知っている彼を“英雄”だと考える日本人は誰一人いないはずだ。ちなみに、日本では2022年7/8に山上徹也による奈良市の近鉄大和西大寺駅前における安倍晋三元総理の銃殺（暗殺）事件が起きたが、これを契機に、安重根による伊藤博文銃殺（暗殺）事件を思い出す程度のことだ。多くの日本人には、1909年10/26に起きた安重根による伊藤博文銃殺（暗殺）事件よりも、1867年12/10に、京都の近江屋で起きた坂本龍馬と中岡慎太郎の暗殺事件の方がより興味深いはずだ。

このように、安重根による伊藤博文暗殺事件への興味、関心についての日韓の温度差は

極めて大きい。そのため、私は必見！と考えて公開日翌日に鑑賞した本作の観客も決して多くはなかった。チラシによると本作は「韓国観客動員数4週連続第1位！」だが、日本での興行収入は期待できないだろう。

## ■□■大韓義軍のシナ山での戦闘は？万国公法の扱いは？■□■

日露戦争（1904～5年）では旅順の攻防戦が有名だが、本作導入部では咸鏡北道のシナ山で起きた大韓義軍と日本軍との戦闘が描かれるので、それに注目！これは旅順攻防戦から数年後の1908年に起きた戦闘だが、私を含めてそれを知っている日本人は皆無だろう。他方、幕末の志士として有名な坂本龍馬が、1867年5/26に起きた「いろは丸沈没事件」で「万国公法」を持ち出し、衝突を起こした紀州藩の船・明光丸の操船上の過失を追及、8万両余の賠償金（現在の約164億円の賠償金）を支払う約束をさせた逸話は有名だが、本作に見るシナ山の戦闘で劣勢にもかかわらず勝利した大韓義軍の安重根（ヒョンビン）が、日本人捕虜の森辰雄少佐（パク・フン）の扱いをめぐって、万国公法を持ち出して、ウ・ドクスン（パク・ジョンミン）やキム・サンヒョン（チョ・ウジン）と対立する姿も日本人は初めて目にするものだ。弁護士の私ですら、ろくに知らない万国公法を坂本龍馬が使いこなしたのもすごいが、1908年のシナ山の戦闘後、ウ・ドクスン、キム・サンヒョンをはじめとするすべての大韓義軍の将兵たちの意見に反して（無視して）、安重根が万国公法を持ち出して捕虜の森辰雄を解放する姿も、にわかに信じがたいほどすごい。

本作を監督したのは、『インサイダーズ/内部者たち』（15年）（『シネマ37』66頁）や『KCIA 南山の部長たち』（20年）（『シネマ48』226頁）で“韓国現代史を描くヒットメーカー”として有名なウ・ミンホ監督だが、彼はアジアを震撼させた歴史的な事件をどのように再解釈し、極限のサスペンスアクションに仕上げたのだろうか？本作のパンフレットには、桑畑優香氏（ライター・翻訳家）のREVIEW『闇を照らす光ホン・ギョンピョ撮影監督とウ・ミンホ監督が描く信念と美学』があり、本作がくっきりと描き出す“闇と光”をわかりやすく解説しているのも、これは要注目！また、本作のパンフレットにはINTERVIEW【制作発表会】があり、ウ・ミンホ監督は「アン・ジュングンが感じた恐怖、同志たちに重点を置いて彼を新しく見せたかった」と語り、主人公のヒョンビンは「最後まで目標を達成しようという信念と意志を表現したかった」と語っているので、それにも注目！

## ■□■清国・ロシア・韓国 VS 日本 の力関係と位置関係は？■□■

司馬遼太郎の『坂の上の雲』を読み、NHK大河スペシャル『坂の上の雲』を観るについては、日清戦争（1894～95年）から日露戦争（1904～5年）に至る当時の、清国・ロシア帝国・韓国 VS 日本 の力関係と位置関係をしっかり把握することが不可欠だが、それは本作を鑑賞するについても同じだ。

まずは、タイトルになっているハルビンの位置は？また、今でも「満鉄」として有名な「南満州鉄道」は、広大な中国大陸の、どの都市とどの都市を、どのように、どのような

時間で結んでいたの？本作を理解するためには、そして本作のテーマたる伊藤博文暗殺事件を読み解くためには、それをしっかり理解することが不可欠だ。しかし、本作のパンフレットには1909年当時の地名・国名があるので、まずはそれをしっかり頭に刻み込みたい。



### ■□なぜ“年老いた狼”の抹殺を？その動機は？説得力は？■□

2022年7/8に起きた安倍晋三元首相銃撃事件は、2024年7/13に起きたドナルド・トランプ大統領の銃撃事件（暗殺未遂事件）と共に、21世紀の今でも銃撃暗殺事件が起きる可能性があることをまざまざと実感させたが、安倍晋三の銃撃犯として逮捕され起訴された山上徹也被告の動機は、母親が多額の献金を強いられた「世界平和統一家庭連合（旧統一教会）」への恨みを募らせたことだ、とされている。

それに対して、安重根による伊藤博文銃殺事件の動機は、本作によれば、安重根が伊藤を祖国の独立を踏みにじる“年老いた狼”と認識したからだとされている。たしかに、3度にわたって締結された日韓協約は一方的に日本に有利、韓国に不利なものだが、それは当時の力関係からして当然のこと。しかし、司馬遼太郎の『坂の上の雲』で描かれた伊藤博文はどちらかというところ慎重派で、日清戦争にも日露戦争にも消極的だったし、西郷隆盛の征韓論に対しても、大久保利通と共に反対していた立場だ。

さらに、前述の Wikipedia でも「韓国併合阻止のために尽力していた伊藤博文」と解説されているから、伊藤博文は韓国に不利な日韓協約を一方的、強硬的に押し付けた“年老いた狼”とは言えないはずだ。しかも、本作前半は万国公法を持ち出して森少佐を解放した結果、森少佐率いる日本軍の反撃を受けて大韓義軍が敗退したため、安重根が多くの同志たちから批判され、孤立していく姿を描くことに重点が置かれているから、なぜ安重根が伊藤博文暗殺を決意したのかの動機については、イマイチ十分に描ききれていない感がある。したがって、その説得力をあなたはどうか考える？ちなみに、Wikipedia でも安重根の経歴については、「開化派の流れを汲むカトリック教徒であるが、華夷秩序を主張した旧守派及び東学党や、後継たる天道教及び一進会とは終生敵対したため、民族主義者としての立場は不明確とされている。」と解説されているから、歴史上の事実としても、彼の伊藤博文暗殺の動機は明確にされていないのだろう。

## ■□■勉強ネタが満載！歴史的背景と新しい安重根像は？■□■

本作のパンフレットには、「解説！『ハルビン』の歴史的背景と新しいアン・ジュンゲン像」がある。そこでは、KEYWORDとして、【大韓義軍】や【シナ山戦闘】の他、【馬賊】や【密偵】等も挙げられているので、それらをしっかりと勉強したい。また、木村幹氏（政治学者）の「安重根と伊藤博文、“ハルビン”にいたるまでの経緯」と、崔盛旭氏（映画研究者）の『ハルビン』で描かれる“人間”安重根という2本の COLUMNがあるので、これもしっかりと読み込んで勉強したい。それを前提としたうえで、本作後半からは、伊藤博文（リリー・フランキー）がロシアの高官との会談のために大連からハルビンに向かうとの情報を得た安重根が、祖国の独立を踏みにじる“年老いた狼”を抹殺することこそが亡くなった同志たちのために自分ができることだと確信し、ウ・ドクスンやキム・サンヒョンと共に大連行の列車に乗るところから始まる、手に汗握るストーリーをしっかりと楽しみたい。

「スパイもの」の傑作は『007』シリーズや『ボーン』シリーズだけかということ、さに非ず。ジェームズ・ボンドは“殺しのライセンス”を持つスパイとして超有名だが、日中戦争時代の汪兆銘政権のスパイはみんな“無名”だった。そんな大前提で作られたチェン・アル監督の中国映画『無名』（23年）（『シネマ 56』130頁）は近時の傑作だったし、婁燁（ロウ・イエ）監督の『パープル・バタフライ』（03年）（『シネマ 17』220頁）や『サタデー・フィクション』（19年）（『シネマ 54』90頁）、張芸謀（チャン・イーモウ）監督の

『崖上のスパイ（悬崖之上）』（21年）『シネマ 54』64頁）も、メチャ面白い中国映画だった。本作の主演として登場する安重根はスパイではないものの、伊藤博文の暗殺を目指して、同志のウ・ドクスンやキム・サンヒョン、そして後半から登場してくるコン夫人（チョン・ヨビン）らと力を合わせていく姿は、“スパイもの”としての面白さも十分満喫できるものだから、それにも注目！もつとも、本作後半では、KEYWORD として挙げられていた「密偵」が大願成就に大きな影響を与えるので、誰が密偵（＝誰が裏切り者・二重スパイ）か？というスリリングなストーリー展開にも注目！

### ■□■意外に簡単！3発も命中！安重根の評価は？■□■

本作のクライマックスとなるハルビン駅での伊藤博文銃殺（暗殺）シーンに向けては、密偵だと疑われているウ・ドクスンが同志のキム・サンヒョンと共に、暗殺阻止と安重根逮捕のために執念を燃やし続けている森少佐をハルビン駅近くの蔡家溝駅に呼び込み・引き止める作戦が、虚実入り混じりながら展開されるので、それに注目！

「安重根を中心とする伊藤博文暗殺部隊が暗躍中」との情報が日本軍や朝鮮都督府に入った後、伊藤博文はロシア蔵相ウラジーミル・ココツェフと会談するための時刻や場所の変更を具申されたのは当然。しかし、彼が漸固としてそれを拒絶し、「すべてを予定どおりに！」と厳命したのは、あくまで日本軍や朝鮮都督府の強さを示すためだった。しかし、そんな強気で本当に大丈夫？密偵を含めたスパイたちの知恵比べも本当に大丈夫？

「もしあの時・・・だったら」という“歴史上の if”はよく語られるが、それは本作も同じだ。すなわち、密偵を蔡家溝駅に追い詰めたものの、そこに安重根がいなかったため、逆に自分たちが蔡家溝駅に引き付けられたことに気づいた森少佐は、急遽、ハルビン駅に引き返したが、「もし・・・」だったら・・・？

安重根が伊藤博文に命中させた拳銃の弾は計3発。伊藤らが列になってロシア要人らと握手を交わしていたところに、群衆を装って近づき、拳銃を発砲する中で3発を命中させたのだから大したものだが、ある意味で意外に簡単！？安重根がその場で逮捕されたのは当然だし、その後の収監、起訴、有罪判決、死刑の流れは誰もが知っている通りだが、問題は安重根の目的達成の有無、程度と、後世の安重根に対する評価だ。

実行から丸3年を経過した2025年7/8、安倍元総理を銃殺暗殺した山上徹也被告の裁判はやっと争点整理が終了し、第1回裁判期日や判決期日の予定が報じられたが、山上被告に対しては、当然、非難ごうごうだ。それに対して、伊藤博文暗殺（銃撃）事件の実行犯たる安重根の評価は？それを、本作鑑賞後1人1人がじっくり確認し、去る6/3の大統領選挙で新たに大統領に就任した李在明（イ・ジェミョン）の掲げる政策から予想される新たな日韓関係、日米韓関係をしっかりと展望したい。

2025（令和7）年7月9日記